

市民力かわら版



四回目を迎えた矢板の軽トラ市 商店街の活性化を目指して

五月十一日に行われた矢板の軽トラ市は二万人の人手でにぎわった。回を追うごとに
出店者が増えている。

平成二十四年に始まり、今でも、軽トラックを売っているのかと勘違いする人もいるそうだが、実際は、軽トラックを利用したフリーマーケットである。

始まった経緯や現状について矢板市商工会で伺った。

●中心市街地に新しい風を

栃木県商工会連合会主催の商工会法施行五十周年記念栃木県大会での基調講演で、スズキ株式会社社長推奨のイベントとして紹介されたのが軽トラ市だった。

すでに全国的に取り組みが行われていて、三大軽トラ市と言われている愛知県新城市、岩手県栗石町、宮崎県川南町などでは、空いていた店舗に新しいテナントが入るなど新しい風が吹き始めたという。一ぜひ栃木県でも取り組んで

みては？」と提案された連合会では、早速、商工会長会で視察。これに参加した矢板市商工会の前田会長が、帰って来るなり「すごいことをやっているから、ぜひ矢板でも！」と提案したことから事業化した。

年に事業化。その年の十月二十八日に、二十六台で始まった。

四回目の今回は七十台が出店。当初は出店者を見つけたのも大変だったというが、回を追うごとに増え、今回は、目標の七十台（道路の使用許可の関係で事前に申請した目標台数）に達し、締め切りをした後も問い合わせがあるほどだった。

矢板市内だけでなく、茨城、福島からも参加、にぎやかになった。インターネット上には軽トラ市専門のサイトもあり、そこからの情報で参加を申し込んでくるなど大きな流れができていくようだ。

現在、石橋や、西方、栗野、高根沢でも取り組みが始まっている。



天気にも恵まれ、たくさんの人が！

●目標台数を上回る申し込み

平成二十三年、商工会青年部での勉強が始まり、二十四



こんな野菜の店も

掘り出し物があるかも



●軽トラ市で活性化を

前回までは前新通りで行っていたが、今回は既存の店の多い本通りに場所を変えて行った。普段の日曜日には閉めていた店も、軽トラ市当日は開店したところもあった。

矢板にもこれだけの人があることを実感してもらい、ゆくゆくは空いた店への新規参入など、商店街が少しでも活気づくのが理想だ。

今回から、企画、運営が約三十人の商工会青年部にすべて任せられた。分担を決め、責任感もより強くなったメンバーは、自分たちが中心になって中心市街地を活性化させようと頑張っている。

軽トラ市の認知度はまだ低いですが、今年は秋にもう一度開催する予定だ。